

「第1回インターネット依存国際ワークショップ」開催



当日は、韓国からの先生2名を含む5名の演者よりご講演をいただきました。

韓国は、国際的にインターネット依存の治療の最先端であり、その取り組みは日本の10年先をいっているともいわれています。その韓国から Sungwon Roh 先生(韓国ソウル国立病院精神保健研究部長/米国マサチューセッツ総合病院精神科研究員)、Hyun Soo Kim 教授(関東大学明知病院精神科教授/女性家族部青少年委員会委員)にご来日いただき、韓国が国をあげて毎年行っている全国調査の結果、その分析の報告、治療プログラムの紹介、ネット依存の治療の実態について、数多くの臨床事例をはさみながらわかりやすくご講義いただきました。

日本からは「ひきこもり」問題でも著名な齊藤環先生(爽風会佐々木病院診療部長/社団法人青少年健康センター参与)/医学博士)をお招きしました。具体的な事例から、ひきこもり状態とネット依存の合併、その改善に向けての有効な治療法、周囲の対応などについて講義いただきました。

また、当院 TIAR の橋本看護師、三原臨床心理士より、オンラインゲームやケータイゲームのはらむ依存の危険性やその背景、当院での調査研究結果やネット依存専門外来での臨床データからみえてくるものについて伝えていただきました。



当日のワークショップは、後日 NHK の時論公論「ネット依存対策急げ」でも紹介されました。
(www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/115049.html)



われわれネット依存治療研究部門(通称:TIAR)は平成7月開設以降、全国のネット依存問題に苦しむ当事者やその家族らの治療、カウンセリングに取り組んできました。8か月余りの短期間ではありますが、その中でも日本社会に潜在化するネット依存問題の大きさを実感するとともに、一般への普及・啓発の必要性を強く感じ今回のワークショップ開催を企画致しました。

今回、開催するにあたってご後援いただきました横浜市健康福祉局をはじめ多くの関係者の方々にご支援いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。皆様方に感謝しますとともに引き続きインターネット依存に対する治療研究を重ね、ネット依存に苦しむご本人様やその家族への支援をしていきたいと考えています。

平成24年3月30日

文責: TIAR 前園真毅(精神保健福祉士)

当日の講義資料(一部)も掲載していますのでご参照ください。
※アンケートで掲載してほしいとのご要望を多数頂戴きありがとうございました。